

稲作情報 第4号 (コシヒカリ穂肥編)

◎コシヒカリの穂肥は、

1回目は、生育に応じて 慎重かつ的確に

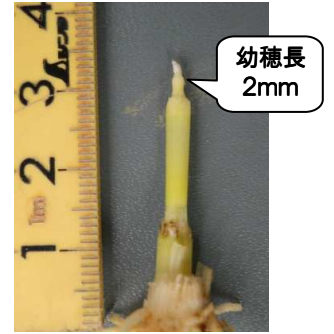
2回目は、穂揃期に適正な葉色(4.2~4.5)となるよう確実に 施用しましょう。

1 コシヒカリの生育状況 (6月18日現在)

・現在の生育は、近年より2日程度早く推移しており、このまま平年の気象で推移すると幼穂形成期は、7月10日頃になると見込まれます。また、直近のコシヒカリの生育状況については、各地区の「青田まわり」や、支所に掲示している「かわら版」等でご確認ください。

<6月18日現在 生育調査結果と幼穂形成期予想>

	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本)		葉令	葉色	幼穂形成期 (幼穂長2mm)
			株当り	m ² 当り			
本年	5/13	40.5	22.0	441	9.5	4.2	予想：7/10頃
H30	5/14	37.4	19.4	412	9.0	4.2	7/11
近年値	5/14	36.9	17.9	367	9.1	4.4	7/12



幼穂形成期の幼穂の姿

2 穂肥の施用

(1) 分施肥の場合

・田植え時期や地域により、幼穂形成期 (幼穂長2mm) が異なるので、幼穂長や生育状況を必ず確認した上、的確に穂肥を施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導してください。

<生育状況による穂肥施用時期・施用量の目安 (分施肥体系) >

穂肥施用時期の生育状況	1回目の目安		2回目の目安	
	時期	肥料名と施用量 (/10a)	時期	肥料名と施用量 (/10a)
葉色がさめた適正な生育 草丈：82cm程度 葉色：3.6	幼穂長 1.5~2.0cm時 (幼形期8日後)	追肥3号 10kg	1回目から 1週間後	追肥3号 10~13kg
		(ひみ穂波契約栽培地区) 有機穂肥32号 10kg		(ひみ穂波契約栽培地区) 有機穂肥32号 10kg
		LP追肥38号 15~17kg	—	施用しない。
葉色がさめずやや過剰な生育 草丈：82~85cm程度 葉色：3.7~3.9	幼形期10日後	追肥3号 7~10kg	1回目から 1週間後	上記施用量を 基準とする。
		(ひみ穂波契約栽培地区) 有機穂肥32号 7~10kg		
		LP追肥38号 11~12kg	—	施用しない。

※生育が過剰で1回目穂肥を施用できず、2回目にLP追肥38号を施用する場合は、施用量8kg/10aとする。

(2) 肥効調節型肥料 (LPss コシヒカリ) を施用した場合

・幼穂形成期10日後頃 (7月20日頃) に、葉色が3.8 (砂壤土4.0) 以下の場合、穂がちらほら見られる時期 (7月27日頃) に「追加穂肥」(追肥3号5~7kg/10a) を施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5 (砂壤土では4.5) に誘導しましょう。

3 今後の水管理

・幼穂形成期までは、土に足跡の深さが2cmになるようにしましょう。

今年、降雨により、土が柔らかい状態となっています。幼穂形成期までに、土が硬くなるよう、落水期間が少し長い間断かん水としましょう。

・幼穂形成期から出穂期までは、足跡に水が残る程度の飽水管理
・出穂から20日間は常に水を張った状態を保つ湛水管理とし、特に、水不足とならないように、管理してください

<水管理のイメージ>

